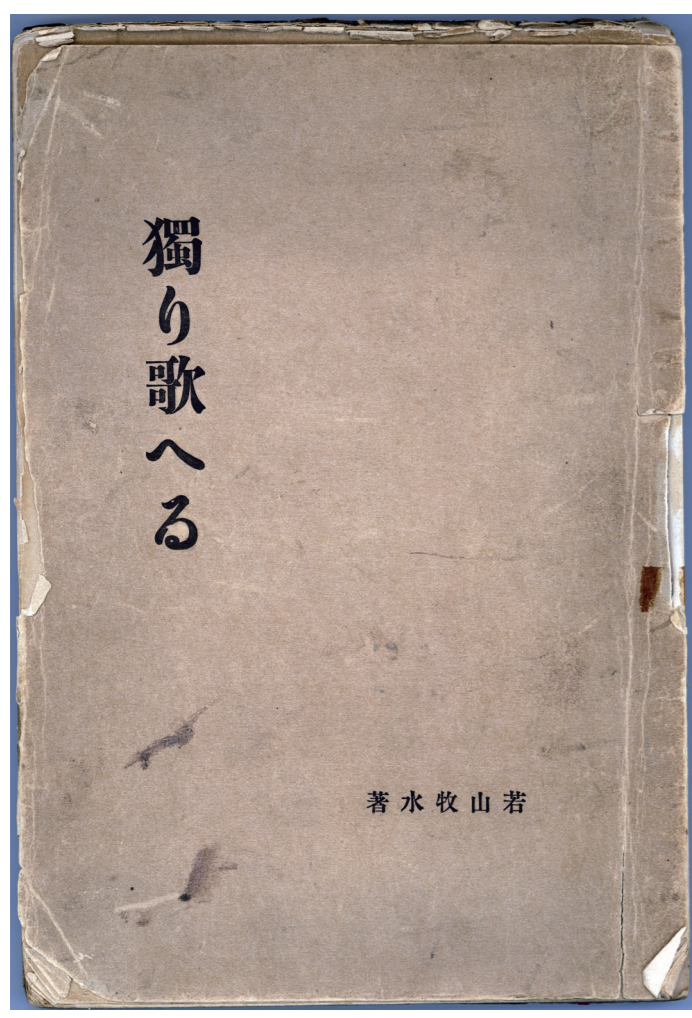


## 収蔵資料から

### 其の88 第2歌集『独り歌へる』



発行日：明治43年1月1日  
発行所：八少女会  
収録歌数：551首

明治43年1月に発行された第2歌集です。明治41年春から42年夏ころまでに詠まれた551首を収録しています。歌の内容は恋人との恋愛が中心ですが、すでに破綻に至っており、必然と重く苦しい歌が連なります。当初、『みづから弔ふ歌』というタイトルを考えていたように、一人の男の区切りとして、牧水の内面の変化を濃密に味わうことができます。

『独り歌へる』は出版社ではなく、愛知県の小さな文芸グループによって制作されました。豊富な資金など無かったので、二百部ほどしか印刷できませんでした。しかも、その多くはグループ内で配布されたため、この歌集が広く世の中に知られることはありませんでした。(荒砂)

## 牧水歌碑めぐり

### 其の89 海ノ口馬市場跡 (長野県)



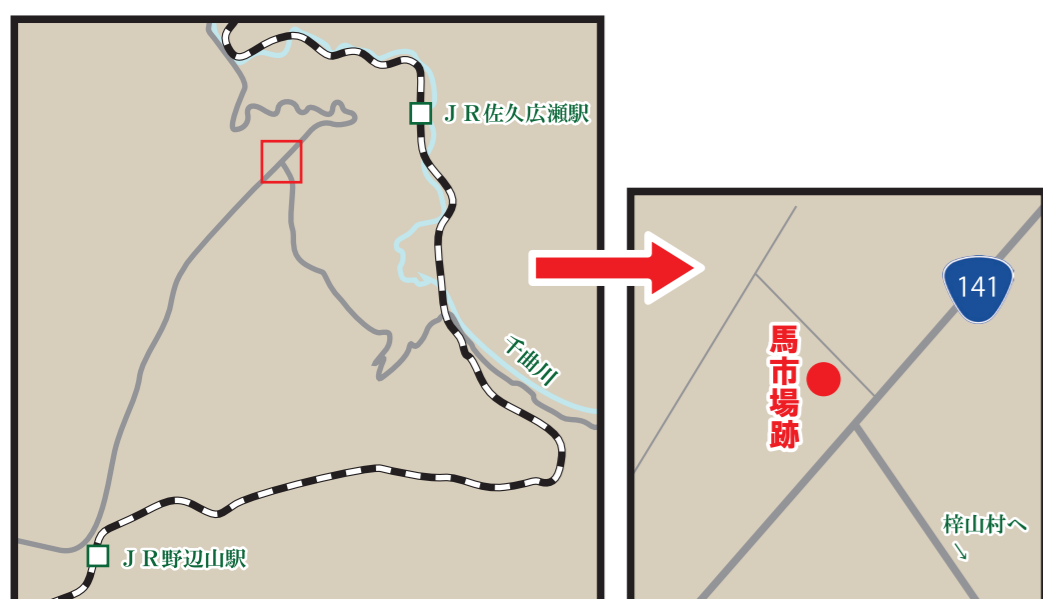
見下にはるかに見えて  
流れたる千曲の川ぞ  
音も聞えぬ

(昭和歌集「黒松」所収)

平成6年建立 写真提供/内田孔毅

大正12年、牧水は長野の友人から誘いを受け、長野県南部の松原湖、野辺山周辺へ出かけます。この歌は松原湖の南、海ノ口市場村付近で詠んだものです。村と千曲川との標高差は約300m、直線距離で約2kmほど離れています。この日、村の宿から千曲川上流の梓山村を目指して歩き出した牧水は、遠くに見える千曲川へ思いを巡らせ、この歌を詠んだのでしよう。

歌碑は南牧村教育委員会により、村内の馬市場跡に建てられました。明治時代、この地域は馬産地として知られ、夏に馬市が開かれていました。(荒砂)



# 文学館だより

令和6年5月1日  
若山牧水記念文学館  
TEL 0982-68-9511  
文責 日高第97号

新年度スタートとともに、ビッグニュースが届いています。  
宮崎が熱い！ 東郷が熱い！！ 文学館が熱い！！！！

## 伊藤先生「日本歌人クラブ大賞」おめでとうございます

我が文学館館長 伊藤一彦先生が「令和6年 第15回日本歌人クラブ大賞」を受賞されました。

### 《受賞理由》

『牧水・啄木・喜志子 近代の青春を読む』(ながらみ書房、2023年9月)を出版し、「若山牧水と石川啄木という、同時代を生きながら濃く影響を及ぼした2人の共通点や相違点を丁寧に検証している」点、なお『老いて歌おう』編集などの活動において、「歌業で牧水を照らし、老いと人間を照らし、広い視野を提示し続けている」長年の功績を讃える。

### 《受賞コメント》

「歌集と比べて目立たない評論の本に光を当ててくれたのはうれしい。今後も宮崎の歌人を育てるという役目を果たしたい。」

《授賞式》 令和6年5月25日(土)  
明治神宮 参集殿



日本歌人クラブ通知、宮崎日日新聞4.19参照

## 吉川宏志さん「遼空賞」おめでとうございます

吉川宏志さんの第9歌集『雪の偶然』(現代短歌社、2023年3月)が「第58回 遼空賞」を受賞されました。

吉川宏志さん・・・と言えば  
牧水と同郷、日向市東郷町出身！  
第21回若山牧水賞受賞！ 歌人です

東郷町で生まれ、高校卒業まで宮崎市で過ごした吉川宏志さん。自ら「若山牧水と同郷」と語る吉川さん。平成28年、第7歌集『鳥の見しもの』で第21回若山牧水賞受賞。現在、京都市在住。「塔」短歌会主宰。

今年2月、第28回若山牧水賞受賞者 永田 紅氏に同行し文学館来訪。牧水賞受賞以来、私たちは「お帰りなさい」と吉川さんを迎えている。

### ○ 遼空賞 ○

前年1月から12月に刊行された歌集の中で最も優れたものに与えられる。短歌界では最も権威ある賞とされている。

伊藤一彦先生は第42回受賞者。



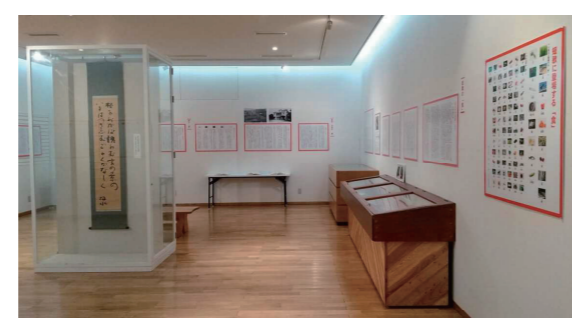
令和3年来訪



令和6年来訪

## 企画展「牧水の食」開催中 6月30日(日)まで

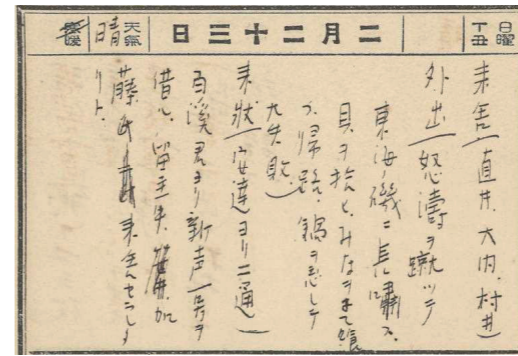
牧水の残した作品から「食」に焦点を当てた企画展「牧水の食」を4月から開催しています。「食」を詠んだ短歌、「食」を書き留めた随筆を紹介している他、日記(複製)や若山家重箱を展示しています。



展示風景



若山家重箱



明治35年2月23日日記

明治35年2月23日(牧水、延岡中学校時代)の日記には、このような一節がありました。

外出 怒濤を蹴つて東海の磯に長 嘯す、貝を拾ひ、みなをにて喰ふ、帰路、鍋を忘れて大失敗

自作の歌なのかそれとも印象に残る好きな歌なのか海に向かって歌った後、貝を拾って茹でて食べたことが記されています。歌ったらおながすいたのでしょうか、あげくの果て鍋を忘れて帰るなんて、思わずクスッと笑ってしまいました。

展示の中から

筍の落せる皮を拾ひ持ちてこの美しきにこころうたれつ 黒松  
そばかきの辛からぬはた甘からぬこの蕎麦かきの味のよろしも 白梅集  
われはもよ塩をぞ選ぶ紅のしたたる西瓜につけてたぶべく 黒松  
駐車場のあまき煤煙のまひ来るレストランの窓の焼肉 死か芸術か

## 牧水先生の一首

折に触れて出会う一首を紹介しています

信濃なる梅漬うましかりかりと噛めば音してなまのまの梅  
しなのなる うめづけうまし かりかりと かめばおとして なまのまのうめ

大正12年12月初旬、長野県千曲川上流地帯を歩いた時の作。牧水38歳。「この国(信州)では梅を所謂(いぬゆ)梅干といふ例の皺のよった塩からいものにせず、木にある生(なま)の実のままの丸みと張りつと固さを持った漬け方をするのである。そして同じく紫蘇(しそ)で美しく色づけられている。これが何処へ行っても必ず毎朝のお茶に添へて炬燵(たこ)の上に置かる。中の核(たね)を抜いて刻んで出す家もあり、粒のままの家もある。これを、かりかりと噛んで渋茶を啜(す)るのは、まことに私の毎朝の楽しみであった。殆んど毎朝その容器をば空にした。また、時として酒のさかなにもねだった。」と、随筆『樹木とその葉』『草鞋の話 旅の話』に書いている。

信濃なる梅漬うましまるまるとなまのまなるまろき梅漬

とも詠み、歌集『黒松』に2首並んで収められている。

上記同様、この歌も当文学館企画展「牧水の食」に登場している1首である。

## ほっこのおすそわけ(▽)

日向市ボランティアの皆さんが、先月21日(日)生家花壇の除草をしてくださりました。そこに坪谷小学校の児童がひとり参加して一緒に活動してくれたそうです。保護者は都合が悪かったそうですが、ひとり、「行ってくる！」と言って参加したそうです。牧水先生が目細めて喜ばれたことでしょう。私にはできそうもありません・・・

信濃なる梅漬うましかりかりと噛めば音してなまのまの梅

牧水

## 伊藤一彦短歌実作講座

短歌の鑑賞や実作を学んでみませんか

若山牧水記念文学館 伊藤一彦館長の講話や指導のもと、短歌の鑑賞と実作をとおして表現の基礎や技法、用語を学びます。歌友と共に楽しく充実した時間を過ごしませんか。

### 【予定日時・会場】

- ① 6月19日(水) 13:30~16:20 日向市中央公民館
- ② 8月21日(水) 13:30~15:30 日向市中央公民館
- ③ 11月20日(水) 14:00~16:00 日向第一ホテル

【参加対象】 宮崎県内にお住まいの方

※6月19日(水)の1回目は、伊藤先生の講話があります。講座生以外の方も受講できます。

### 【定員】

40名程度(先着順とさせていただきます。)

### 【申込み方法】

電話、FAX、メール等で「若山牧水記念文学館」まで申込んでください。

### 【申込み期限】

5月22日(水)

### 【会費】

1回につき500円



昨年の様子

## 高森文夫直筆原稿展示

半世紀の時間を越えて初公開！！

高森文夫が第2詩集発刊に向けて準備しながら世に出なかった直筆原稿集「嬌羞の歌」には、51篇の詩が収録されています。文学館では1ヶ月ごとに順次公開しています。

5月は「嫌悪の歌」です。文学館でしか観られない貴重な直筆原稿ですので、ぜひご覧ください。(荒砂)



直筆原稿「嫌悪の歌」

## 若山牧水記念文学館

令和6年5月1日発行 宮崎県日向市東郷町坪台1271番地

■若山牧水記念文学館 利用案内■  
【開館時間】9:00~17:00 (入館は16:30まで)  
【休館日】月曜日(祝日は除く) 年末年始(12月29日~1月3日)  
【入館料】小・中学生/100円 高校生以上/310円(20名以上の団体は2割引)  
【お問合せ】TEL 0982-68-9511 FAX 0982-68-9512【公式HP】https://www.bokusui.jp

